

経営比較分析表（令和5年度決算）

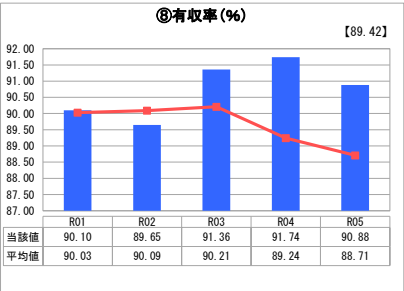
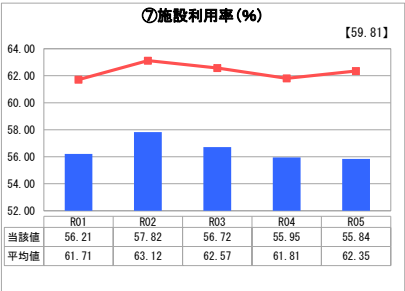
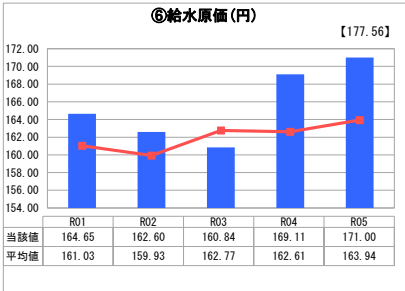
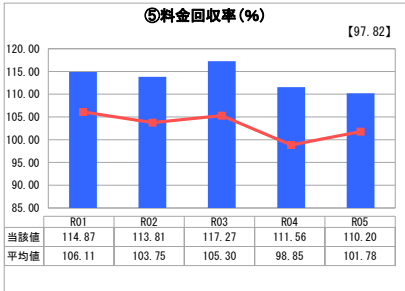
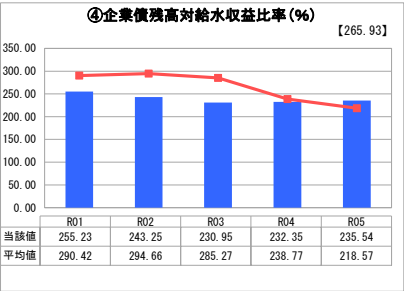
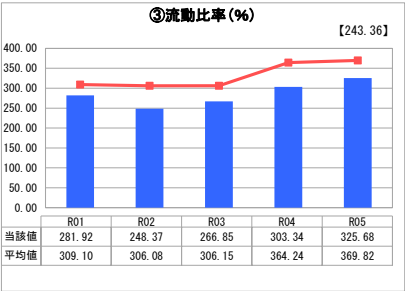
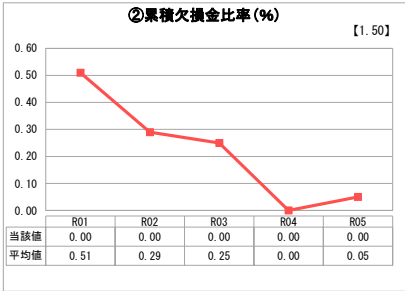
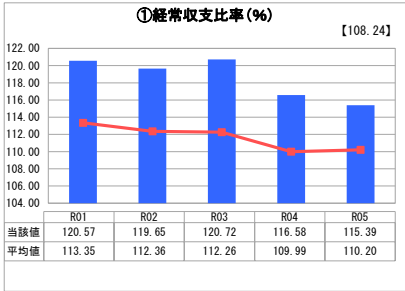
富山県 高岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	76.86	90.76	3,438	

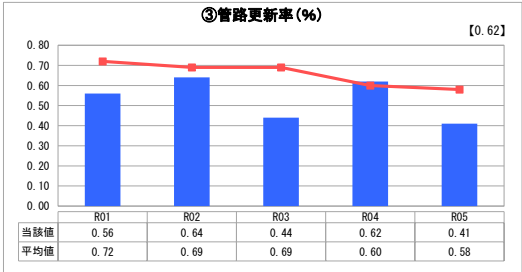
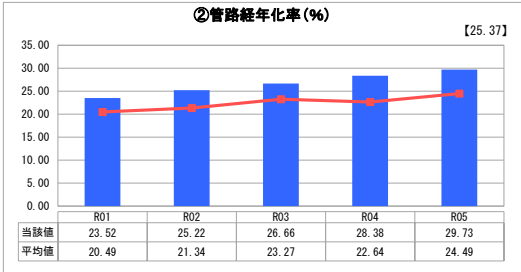
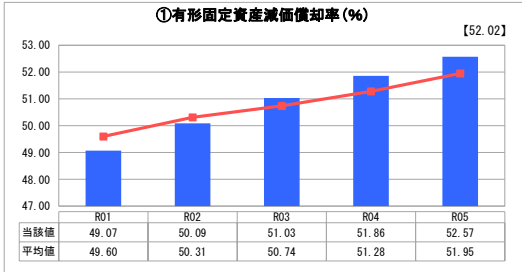
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
164,053	1,241.70	132.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
148,148	209.58	706.88

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・①経常収支比率は黒字を示す100%を上回っており、②累積欠損金も発生しておらず健全な経営状況にあると言える。今後も業務効率化を図る中、健全な経営に努めていきたい。
- ・③流動比率は300%を上回っており、1年以内の短期債務に対する支払い能力が十分であると言える。
- ・④企業債残高対給水収益比率は全国・類似団体平均と同水準である。
- ・⑤料金回収率は100%を上回っており、適切な料金収入による健全な経営であると言える。
- ・⑥給水原価は近年の物価高騰の影響により上昇傾向にある。業務効率化を図り、費用の抑制に努めていく。
- ・⑦施設利用率は全国・類似団体平均に比べ低い水準であるが、人口減少などにより平均配水量が減少していることから、今後の水需要を適正に見極める中、施設規模の見直しや施設の統廃合を検討する必要がある。
- ・⑧有収率は、近年漏水調査に注力しているため、全国・類似団体平均を上回っている。引き続き有収率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

- ・①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率は年々上昇傾向にあり、全国・類似団体平均を上回っている。
- ・③管路更新率は、大口径の基幹管路更新事業に集中的に取り組んだことから全国平均を下回っている。計画的かつ効率的に管路更新事業を推進していく必要がある。

全体総括

- ・経常収支比率、流動比率及び料金回収率はともに100%を超え、概ね健全な経営状況にあると言える。しかし、今後は人口減少に伴い水需要が大きく減少する一方で、老朽施設の更新需要が増大するなど経営環境はますます厳しくなることから、事業の効率化に一層努めるとともに、広域連携や官民連携を目指していかねばならない。
- ・今後も効率的な事業運営に努める中、施設の統合やダウンサイジング、長寿命化を図ることで更新費用の抑制に努めるとともに、広域連携や官民連携の推進による経営基盤の強化を視野に入れた中長期視点に立った健全経営に取り組む必要がある。